

## 感染症の場合の登園について

保育園では、お子さんが感染症にかかった場合は、本人の健康の回復及び他の園児への感染を予防するため一定期間登園を控えていただいています。

医師の診断及び治療を受けられ、病気が治癒、又は他の園児への感染のおそれがなくなりましたら別紙の「登園許可証明書」を園へ提出してください。お子さんとまわりの園児の健康を守るためにご理解とご協力をお願いいたします。

### 「登園許可証明書」が必要な感染症

病名	症状・特徴	登園の目安
麻疹 (はしか)	発症初期は高熱、咳、鼻水、結膜充血、目やに等の症状。発熱は一時下降傾向を示すが、再び上昇し、この頃口の中に白いプツプツがみられる。その後、顔や頸部に発しんが出現する。	解熱した後3日を経過するまで
風しん	発しんが顔や頸部に出現し、全身へと拡大する。発しんは紅斑で融合傾向は少なく、約3日間で消え、色素沈着も残さない。発熱やリンパ節腫脹を伴うことが多く、悪寒、倦怠感、眼球結膜充血等を伴うこともある。	発疹が消失するまで
水痘	発しんが顔や頭部に出現し、やがて全身へと拡大する。発しんは斑点状の赤い丘しんから始まり、水疱（水ぶくれ）となり、最後は痂皮（かさぶた）となる。	すべての発疹がかさぶたになるまで
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ、ムンプス)	発熱と唾液腺（耳下腺・顎下腺・舌下腺）の腫脹・疼痛。 発熱は1～6日間続く。唾液腺の腫脹はまず片側が腫脹し、数日して反対側が腫脹することが多い。発症後1～3日でピークとなり、3～7日で消える。腫脹部位に疼痛があり、唾液の分泌で痛みが増す。	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
インフルエンザA・B	突然の高熱が出現し、3～4日続く。倦怠感、食欲不振、関節痛、筋肉痛等の全身症状や、咽頭痛、鼻汁、咳等の気道症状を伴う。	発症後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで

病 名	症 状・特 徴	登 園 の 目 安
流行性角結膜炎	目の充血、目やにが出る。幼児の場合、目に膜が張ることもある。片方の目で発症した後、もう一方の目に感染することがある。	医師において感染のおそれがないと認められるまで
急性出血性結膜炎	強い目の痛み、目の結膜（白眼の部分）の充血、結膜下出血がみられる。また、目やに、角膜の混濁等もみられる。	医師において感染のおそれがないと認められるまで
溶連菌感染症	扁桃炎、伝染性膿痂しん（とびひ）、中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髓炎、髄膜炎等の様々な症状を呈する。 扁桃炎の症状としては、発熱やのどの痛み・腫れ、化膿、リンパ節炎が生じる。舌が莓状に赤く腫れ、全身に鮮紅色の発しんが出る。また、発しんがおさまった後、指の皮がむけることがある。 伝染性膿痂しんの症状としては、発症初期には水疱（水ぶくれ）がみられ、化膿したり、かさぶたを作ったりする。	抗菌薬内服後24～48時間経過していること ただし、治療の継続は不要
感染性胃腸炎 〔ノロウイルス感染症 ロタウイルス感染症 アデノウイルス感染症〕	嘔吐・下痢（ロタの場合はしばしば白色便を伴う）。脱水を合併することもある。	嘔吐、下痢の症状が治まり、普段の食事ができること
RSウイルス感染症	呼吸器感染症で乳幼児期に初感染した場合の症状が重く、特に生後6か月未満の乳児では重篤な呼吸器症状を生じ、一度かかっても十分な免疫が得られず何度も罹患する可能性があるが、再感染・再々感染した場合には徐々に症状が軽くなる。	重篤な呼吸器症状が消滅し全身状態が良いこと
手足口病	口腔粘膜と手足の末端に水疱性発しんが生じる。また、発熱とどの痛みを伴う水疱（水ぶくれ）が口腔内にでき、唾液が増え、手足の末端、おしり等に水疱（水ぶくれ）が生じる。	発熱がなく（解熱後1日以上経過し）、普段の食事ができること
ヘルパンギーナ	高熱、のどの痛み等の症状がみられる。また、咽頭に赤く粘膜しんが見られ、次に水疱（水ぶくれ）となり、間もなく潰瘍となる。高熱は数日続く。	発熱がなく（解熱後1日以上経過し）、普段の食事ができること